

おもな内容

- ・共に学び磨きあう校長会
- ・第72回研究大会並びに総会
- ・専門部日より
- ・郡市校長会の動向
- ・新会員ひとこと抱負

群馬県小学校長会

会 報

平成30年6月28日 第206号
発行 群馬県小学校長会
会長 山口和良
〒371 前橋市文京町2-20-22
-0801 群馬県小・中学校校長会事務局
TEL 027-223-7158
編集 群馬県小学校長会
広 報 部
印刷 有限会社 アート印刷

共に学び磨きあう校長会

群馬県小学校長会会長 山口和良



「これからの時代は我々が育ってきた時代とは全く異なる。これまでは、人の成功体験を辿っていけば自分の未来が見えた。そこに答えがあった。しかし、しばらく前から、それが通用しなくなった。AIの発達、情報化、グローバル化の世の中、すなわち答えのない時代を生きる力を子どもたちに身に付けさせたい、その第一が学力だと思う。知識を広げるだけでなく、多様な考えを整理して自分なりの答えを導き出していく力が求められる。」

これは、4月の全市町村立小・中・特別支援学校校長会議において笠原寛県教育長が強調されていた言葉です。

私は、群馬県小学校長会の伝統と研究等の成果を踏まえ、笠原教育長が力説した「未来への予測が困難なこの時代に求められる学力を子どもたちに確実に身に付けることのできる学校づくり」に向けて、304人の校長がリーダーシップを発揮できるよう、次の三つの方針に基づき活動を進めたいと考えています。

一つ目の方針は、校長会の存在意義を共有し活動の目的を達成することです。校長会は、県下小学校長間の緊密な連絡を図り、各校長が力量を高めることで小学校教育の充実に寄与できてこそ、価値ある存在になると思います。そのために、校長会の存在そのものに対する意識を高め、会の活動のねらいを明確にして目的を達成していきたいと思っています。

二つ目は、県教育委員会との連携を強化することです。すでに、理事研修会の中で、県教育委員会の各課等から情報提供を得て、学校教育が抱える諸課題に対して、適切な対応を進めています。そのことが、県民の信託に応える小学校教育の創造に結びつくと考えます。特に、学習指導要領の移行措置期間に入り、「特別の教科 道徳」の完全実施や「外国語」の教科化に対応する教員の指導力向上にも、十分に対応していかなければなりません。県教委との連携を生かし、校長同士がよく連絡を取り合って、子どもたちに還元していくことが大事なことと考えます。また、県教育委員会による人的配置・各種施策の成果について情報提供するとともに、課題についてもしっかりと共有していくことが大切なことです。

三つ目は、教職員の多忙化解消により子どもと向き合う時間を確保し、子どもたちにも教職員にとっても魅力ある学校経営を行うことです。今年度から、全県で教職員の勤務時間の把握が始まりました。長時間勤務の実態が数字として明らかになった時、校長としてその削減にどう取り組んでいくか、方策を練らなければなりません。校長会としても、真に必要感のある活動を行っていきたいと思います。

まとめれば、校長会の目的達成、県教委および校長同士の連携による学校経営の力量アップ、教職員の多忙化解消、以上をしっかりと進めたいということです。

県小学校長会は、以上三つの方針の下、共に学び磨きあい、自校の目標達成と課題解決の具現化に生かす活動をしていきたいと思っています。